

2023 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

## 授業改善アンケート調査結果

### 1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2023年度秋冬学期アンケート回答期間：2023年1月5日（金）～2月8日（木）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、71.5%であった（参考：2022年度春夏学期72.2%、同年度秋冬学期71.8%）。

**2022年度秋冬学期授業改善アンケート 講義科目  
対象科目数・回答数**

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	5	396
	行動系科目	30	379
	社会人間系科目	14	232
	教育系科目	31	427
	共生系科目	11	157
大学院科目	共通科目	3	22
	行動系科目	18	56
	社会人間系科目	11	38
	教育系科目	18	75
	共生系科目	13	55
G30科目		20	199
計		174	2036

回収数 2036 / 受講登録者数 2848 = 回収率 71.5%

- ※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
- ※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

## 2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2022年度秋冬学期の授業改善アンケート回収率は71.8%となり、2021年度秋冬学期の20.6%から51.2ポイントと大幅に上昇した。2023年度秋冬学期の回収率も71.5%と高い回収率を維持している。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1~5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する)については、平均が4.36(2022年度秋冬学期4.36)であり、前年度同様高い値となった。学系別集計によると、学部の教育系・共生系科目においては、「非常に良かった」と回答している学生の割合が大幅に向上している(教育系:43.8%→51.5%、共生系:44.1%→55.4%)。これらの科目に関しては、問9「この授業「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」についても「強くそう思う」と回答している学生の割合が向上しており(教育系:29.8%→30.7%、共生系:26.8%→28.0%)、専門的知識の習得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が82.1%と高い数値ではあるが、2022年度秋冬学期85.0%よりも2.9ポイント減少しており、出席率の向上は今後の課題である。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは22.1%となり、徐々に改善している(2021年度30.5%、2022年度23.4%)。この点に関しては、オンライン授業が中心となった2020-2021年度のあいだに授業外学修にかんするさまざまな対策・工夫がなされたことが窺われるとともに、効果が発揮されているといえる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が71.5(前年度72.1%)、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が19.3%(前年度21.3%)、「そう思う」が62.4(前年度61.6%)、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は「強くそう思う」が37.7%(37.0%)、「そう思う」が55.3%(53.4%)といずれも前年度並みに高い値となっている。このことから、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問9の学問的知識の習得および問10の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2023年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

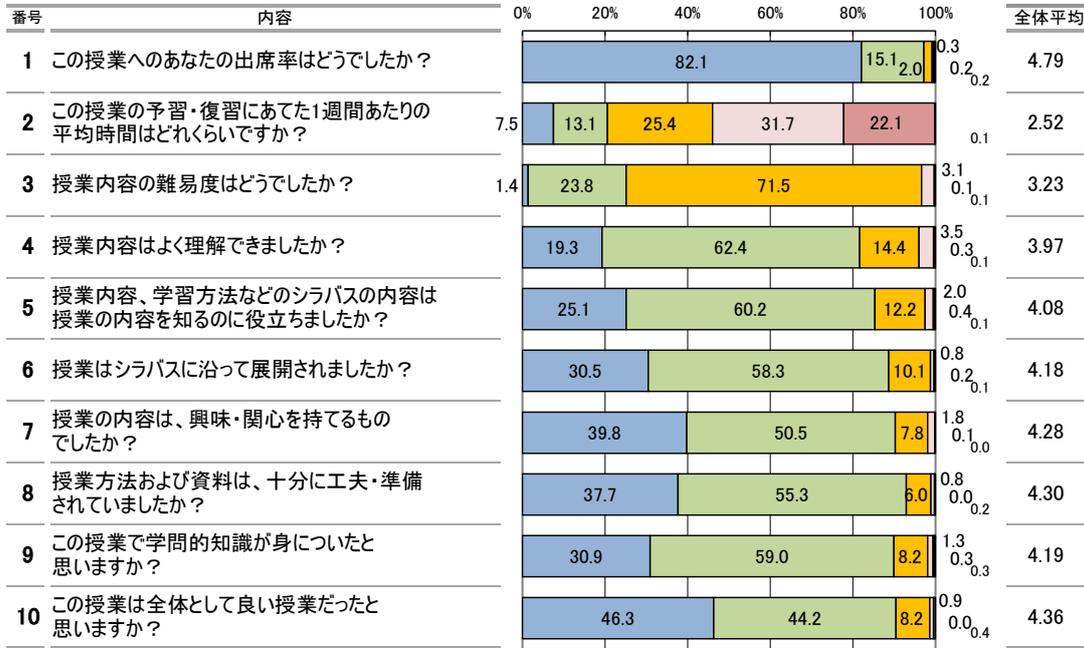
- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

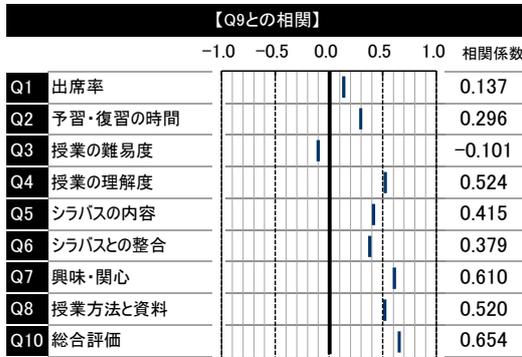
授業改善アンケート

大阪大学 人間科学部・人間科学研究科  
2023年度秋学期

<b>全体集計</b>	履修者数	2848
	回答数	2036
	回答率	71.5%

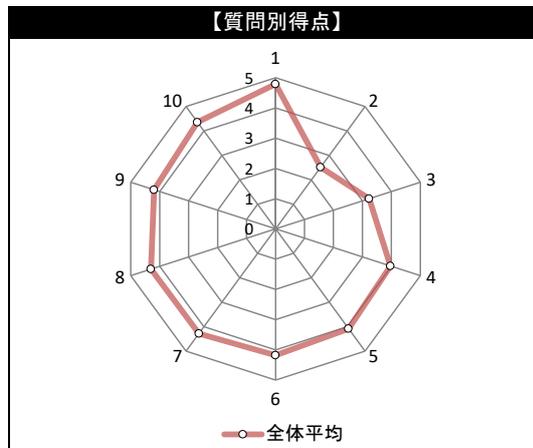


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)



大阪大学 人間科学部・人間科学研究科  
授業改善アンケート 2023年度秋学期

### 学系別集計【全体】

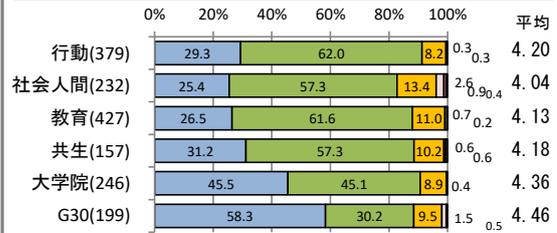
※グラフ内数字は回答率（％）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	-
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	不明(無回答を含む)
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	

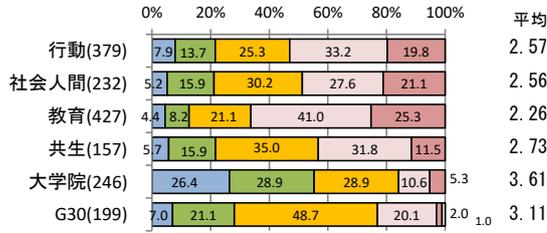
#### 1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



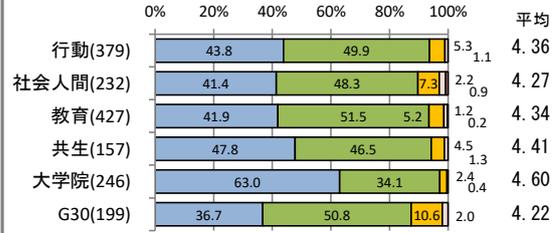
#### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



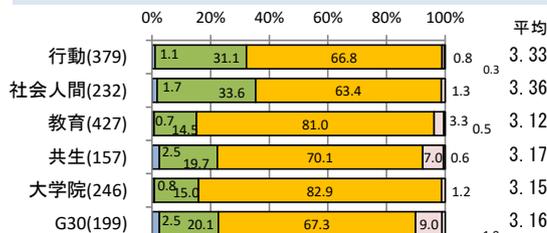
#### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



#### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



#### 3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



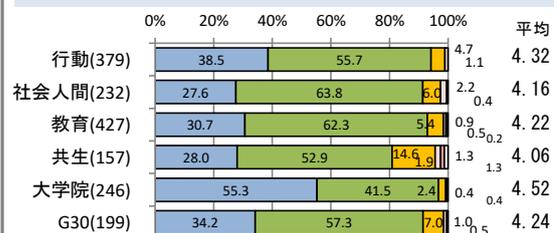
#### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



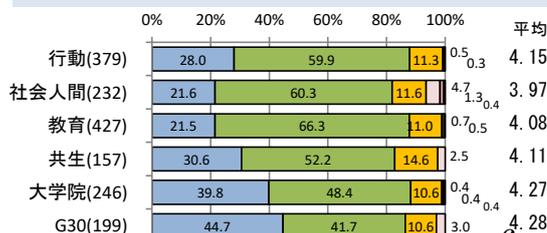
#### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



#### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



#### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



#### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 174 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 52 科目であり、平均値 4.36 を上回ったのは 24 科目であった。

2022 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	基礎心理学(知覚・認知心理学)	36	4.75
2	安全行動学演習Ⅱ	10	4.70
3	共生の技法Ⅰ	42	4.69
4	比較福祉論	24	4.67
5	霊長類心理学	33	4.64
5	安全行動学	22	4.64
7	教育と社会	13	4.62
8	教育行動学演習Ⅱ	10	4.60
8	社会環境学演習	15	4.60
8	人間行動学実験実習Ⅰ(心理的アセスメント)	15	4.60

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	地域創生論特講Ⅱ	11	4.73
2	人間科学方法演習	14	4.50

### 3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

#### 【行動学系】

青野 正二

質問別得点の分布を見ると、当科目の得点は、学系別集計（講義）の行動学の平均と比較すると、授業内容の難易度ではほぼ一致する傾向であった（得点差は1を下回っていた）。一方、理解度については、やや下回っていた（得点差は1を上回っていた）。この傾向は、学系別集計（全体）と比較しても同様であった。これについては、授業の前半部分（概論に関する内容）と後半部分（各論に関する内容）における難易度の差によるものと思われる。つまり後半部分では、より専門的な知識などが必要とされるため、前後半を通してみれば、やや難しく感じられたのではないだろうか。（科目：環境評価論）

入戸野 宏

学部と大学院の演習科目について、おおむね高評価を得た。よい論文を探す方法を教えてほしいという要望があったので、次回からは授業の最初に説明するように心がける。

三浦 麻子

特に講義科目（社会・集団・家族心理学）については、この授業改善アンケートも含め、折に触れて学生からの反応を収集して、内容のブラッシュアップを図っています。今後とも参考にします。

山田 一憲

それなりにより授業であると受け取っていただいた様です。次年度もこのように進めたいと思います。

鹿子木 康弘

アンケート結果を見ると、演習系の授業では、各項目ともおおよそ平均的な評価を得ているようである。難易度においても、適切な評価を得ており、内容に関しては特に問題ないかと思われる。講義系の授業も、おおむね平均的な評価を受けている。しかし、講義系の授業では予習・復習の時間が短い学生が散見された。講義系の科目では仕方ない面もあるが、必要であれば、次回に改善したい。

足立 浩平

数理系の学問は難解さを伴うため、すべてを把握するのは難しいです。そこで、「この部分はわからなくても構わない」という判断が大切で、大雑把にエッセンスを把握することに努めてください。

篠原 一光

いずれの科目についても特段ネガティブな評価はなく、いずれも問題なく授業できたと考える。特に講義科目について予習復習を行ってもらうためにどのようにするか、という点が数年来の課題であり、やや改善されたように思われるが、引き続き有意義な講義時間以外の学習ができるよう改善を進めたいと考えている。

【社会学・人間学系】

野尻 英一

ご回答、ご意見を参考に授業環境を改善してまいります。特に大学院入試等の理由により秋冬学期最後の授業回が確保できない件、口頭も含めて厳しいご意見を複数ご指摘いただきました。教務委員会でも提起しましたが、現状、改善は難しいとのこと。中長期的課題として、今後も引き続き、改善を提案していきたいと思っております。

吉川 徹

受講生 40 名で n=2 であった。真剣に授業を受けてもらった。静かな環境、明快な日本語を心掛けた。受講生からは、このアンケートとは別の方法で細かいフィードバックを得て授業内容を向上させている。

辻 大介

今年度の学部講義「コミュニケーション社会学」の総体評価（良い授業だったか）は、着任以来初めてわずかながら全体平均を下回ってしまいました。学内用務や身内の不幸のために休講をくり返すことになってしまい、そのことが響いたのかもしれませんが。日程都合上、補講もできなかったのですが、今後こうしたケースではオンデマンドで補講を配信することなどを検討したいと思います。学部 2 年生向けの専門導入ゼミ「社会環境学演習」は、共同担当した五十嵐先生のおかげもあって、平均をかなり上回る高い評価をもらいました。

村上 靖彦

人権を重視した議論をしており、一部のコメントから、今後より一層マイノリティの人たちの人権に配慮した教育が人科全体としても必要だと感じました。

【教育学系】

老松 克博

今年度は定年退職前の最終年度でしたので、臨床心理学特講Ⅱではいちばんの専門領域である夢分析についてお話ししました。その奥深さを十分に伝えるところまでは行けなかったと思いますが、履修生の皆さんが理解に努めてくださり、多少ともなじんでいただけたのはありがたいことでした。暮らしと心がどこでどう結びついているか知ることは、教科書からはほとんど学べませんが、臨床ではとても重要です。特講以外の授業も含め、その点についていろいろな伝え方を試みました。なにがしか感じとっていただけていたらうれしいです。

園山 大祐

受講ありがとうございました。次年度に反映できるよう、努めます。

野坂 祐子

熱心に受講された方が多くてよかったです。

「予習・復習の時間」が少ないようでした。とくに課題を出さない授業でも、自主的に自己学習を進めていただければと思います。

岡部 美香

面白い授業だったと思っていただけて嬉しいです。フィールドワークあり、ディスカッションあり、文献講読あり、といろいろ果敢に挑戦してもらっていますが、今後も、無理のない範囲で、楽しく充実した受講時間を過ごしてもらえれば幸いです。私の授業では、「何をどこまでするか」を受講者が自分で設定する、という点に意味があります（もちろん、その設定内容・基準自体が、単位を出すには問題があると判断される場合は、要相談・検討です）。「探究」することに意味がある——そう思える人は楽しく充実した時間を過ごせると思います。

野村 晴夫

概ね及第点のようですが、予習・復習のさらなる充実を中心に、改善に努めてまいります。

藤川 信夫

人間変容論Ⅱでは、演劇ワークショップを新規に導入したが、概ね肯定的な評価をいただいた。次年度は、大学コンソーシアムとして複数大学共同の授業として拡張する予定である。

木村 涼子

今年度、対面授業が基本となり、それまでのオンラインがメインだった体制からの変化がありましたので、その変化を前向きに活用できるように、どの授業でも努力しましたが、授業改善アンケート結果を拝読すると、自分の努力がうまく実現した面と不備があった面が見えてきました。次年度、これらの教訓を活かして、授業運営をしていきたいと思っています。

#### 【共生学系】

千葉 泉

今後、また授業を担当することがあったら、学生との間のコミュニケーションをさらに改善し、授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握しつつ、迅速にフィードバックを行いたいと思います。

#### 【その他（学系外）】

\*評価資料室

米田 翼

【現代人間学演習Ⅱ】昨年度に引き続き、授業の(7)内容・(8)方法・(9)知識の習得度に関する項目、また(10)授業全体の評価は、5.0点と非常に評価が高かった。また、昨年度は(4)理解度が3.5点とやや低い結果であったが、本年度は4.0点となった。これは、コメントシートにより全体の理解度を把握したうえで、各回の冒頭で理解を促進するための復習の時間を確保するといった取り組みの結果だと思われる。

2023年度人間科学研究科／人間科学部 授業アンケート回答結果 計20名分